

地域振興県土警察常任委員会資料

(平成25年11月27日)

- 1 鳥取県立倉吉未来中心の指定管理者審査要項(案)の概要について
【文化政策課】・・・1ページ
- 2 平成25年度鳥取県文化功労賞について
【文化政策課】・・・3ページ
- 3 第18回北東アジア地域国際交流・協力地方政府サミットの結果について
【交流推進課】・・・5ページ
- 4 首都圏における航空便利用促進の取り組みについて
【観光政策課】・・・9ページ
- 5 山陰海岸ジオパークの日本ジオパーク再認定審査について
【観光政策課】・・・10ページ
- 6 タイにおける知事トップセールスの結果概要について
【国際観光推進課・交流推進課】・・・11ページ
- 7 まんが王国とっとり第2回元老院議会の開催結果について
【まんが王国官房】・・・13ページ
- 8 国際マンガサミット香港大会への参加結果について
【まんが王国官房】・・・16ページ
- 9 「エコツーリズム国際大会2013 in 鳥取」の開催結果等
【西部総合事務所地域振興局】・・・17ページ

文化観光局

鳥取県立倉吉未来中心の指定管理者審査要項（案）の概要について

平成25年11月27日

文化政策課

平成26年度から倉吉未来中心の管理運営を行う指定管理者について、次のとおり審査することとしています。なお、審査要項は、文化観光局指定管理候補者審査委員会での審査を踏まえて決定します。

1 指名団体とその理由

(指名団体) 公益財団法人鳥取県文化振興財団(H18年度～H25年度までの指定管理者:2期)

(指名理由) 人と人との交流を促進し、地域の活性化を図るという施設の設置目的に照らし、地域と連携した各種文化事業や鑑賞公演等の実施を通じて地域の活性化と文化振興に寄与しており、かつこれまで施設の管理運営も適切に行ってきた実績があることから引き続き当該法人が管理することが適当であると認められるため。

2 指定管理者が行う業務

(1) 指定管理者が行う業務の内容

ア 施設設備の維持管理に関する業務

イ 施設の利用許可、利用料金の徴収等に関する業務

ウ 施設等を利用した文化芸術の振興に関する業務

エ その他、施設の管理運営に必要な業務(サービスの提供、施設の利用促進等)

(2) 管理の基準(基本的事項)

施設の開館時間、休館日、利用料金等は、あらかじめ知事の承認を得て決定する。

(3) その他、管理上の条件等

ア 館長相当職を1名配置すること。

イ 文化活動者等に対する適切な助言及び支援や施設の利用促進のための文化芸術事業等を実施するために必要な知識と技術を有する常勤職員を配置すること。

ウ 舞台・音響・照明のいずれかの実務経験が3年以上ある常勤職員を配置すること。

3 利用料金等の取扱い

施設利用料金や利用者へのサービス提供に伴う収入は、指定管理者の収入とする。

4 委託料

県は、指定期間中の管理運営に必要な経費として、総額474,585千円(消費税及び地方消費税を含む)を上限として、委託料を支払う。

各年度の委託料に余剰金が生じた場合は、真に経営努力といえる経費の2/3の額を指定管理者の設ける基金に積み立て、公益事業や施設管理経費に活用する。

なお、利用料金等と委託料の額が業務の実施に要する費用の額に達しない場合においても、県はその差額を補填しないものとする。

5 指定期間

平成26年4月1日～平成31年3月31日〔5年間〕

6 スケジュール

- | | |
|-------------------|------------------------|
| (1) 審査要項送付 | 平成25年12月上旬 |
| (2) 書類の提出期限 | 平成26年1月16日(木) |
| (3) 審査委員会(候補者の選定) | 平成26年1月23日(木) |
| (4) 審査結果の通知・公表 | 平成26年1月下旬 |
| (5) 指定管理者の指定 | 平成26年2月下旬(議会の議決を経て行う。) |

7 審査方法等

(1) 審査方法

学識経験者等で構成する審査委員会を開催し、公益財団法人鳥取県文化振興財団が指定管理候補者として適当かどうかを審査する。

(2) 審査委員会委員

学識経験者、税理士、文化団体及び地域づくり団体の代表2名、倉吉市企画振興部長、文化観光局副局長 計6名

(3) 審査基準

審査基準	主な審査項目
施設の平等な利用を確保するのに十分なものであること。 (指定手続条例第5号第1号)	○管理の基本的な考え方の適合性 (施設設置目的の理解、管理運営の方針等)
施設の効用を最大限に発揮させるものであること。 (同条例第5条第2号)	○施設の設置目的に沿ったサービス・事業の内容 (利用者・文化活動者等への支援、より良い運営のための体制づくり、地域との連携、サービスの向上策、施設の利用促進等) ○管理の基準 (開館時間、休館日、利用料金等の設定、個人情報保護、情報の公開等) ○施設設備の維持及び衛生管理の水準 (施設設備の維持管理・衛生管理、外部委託の考え方、省エネルギー・省資源への取組) ○事故・事件の防止措置、緊急時の対応 (災害・盗難等の事故・事件の防止、緊急時の体制・対応、利用者の苦情等トラブルの未然防止と対処方法) ○利用者等の要望の把握
管理に係る経費の効率化が図られるものであること。 (同条例第5号第2号)	○収支計画及び積算内容
安定して管理を行うために必要な人員及び財政的基礎を有しており、又は確保できる見込みがあること。 (同条例第5号第3号)	○組織及び職員の配置等 ○専門職員の配置 ○法人の財政基盤、経営基盤 ○関係法令に係る監督行政機関からの指導等の状況 ○法人の社会的責任の遂行状況 (障がい者雇用の状況、男女共同参画推進企業の認定の状況、ISO・TEASの認証等の状況) ○当該施設の管理運営状況の実績評価

* 指定手続条例：鳥取県公の施設における指定管理者の指定手続き等に関する条例

平成25年度鳥取県文化功労賞について

平成25年11月27日
文化政策課

県民文化の向上発展を図るため、平成15年度以降、優れた芸術文化活動により広く文化の振興に貢献された方々を対象として、鳥取県文化功労賞を授与していますが、平成25年度の受賞者を以下のとおり決定しました。

(※毎年度2～3名授与しており、これまでの受賞者数は29名。)

1. 平成25年度の受賞者

氏名	年齢	住所	分野	活動内容
ながた 英正 なぐた ひでまさ	80歳	倉吉市	中国史	京都大学在学中より東洋史・中国史の研究に力を注ぐ。特に漢代の研究の専門家であり、木簡研究の第一人者である。優れた著書を出版し、県内で講演や勉強会等も行っている。(代表著書『漢の武帝』)
まかた 友宏 まかた ともひろ	78歳	米子市	民俗学	長年にわたり県の文化財保護審議会委員を務め、多くの民俗事象の文化財指定に尽力した。またその著書は専門的な質を落とすことなく、一般にも読みやすい内容となっている。(代表著書『因伯民俗歳時記』)
いしだ 雲鶴 いしだ うんかく	77歳	鳥取市	書道	鳥取書道連盟の副会長を務める。日展の特選を2回受け、平成17年に日展依嘱となり、平成20年に審査員となる。平成25年度に2回目の審査員に選出。鳥取由源友の会の会長を務め、後進指導にあたる。(代表作『野望 杜甫』)

2. 表彰式の開催

- (1) 日 時 11月27日(水) 午後4時30分から午後5時まで
- (2) 場 所 知事公邸 (鳥取市東町一丁目133番地)
- (3) 出席者 各受賞者、鳥取県知事 ほか

3. 巡回展の開催

下記の3か所でパネル、作品等により受賞者の功績を紹介する巡回展を開催します。

地区	会場	期間
東部	県立博物館 (鳥取市東町二丁目124)	平成26年1月25日～2月3日
中部	倉吉博物館 (倉吉市仲ノ町3445-8)	平成26年1月12日～1月19日まで (※) 1月13日は休館
西部	米子コンベンションセンター (米子市末広町254)	平成26年2月8日～2月16日まで

※入館料は無料です。

【参考：鳥取県文化功労賞受賞者一覧】

年 度	受賞者(受賞時の年齢)	分 野	住 所
平成15年度	稲村 謙一(96)	文 芸	鳥取市
	長谷川 富三郎(93)	版 画	倉吉市
	船越 元四郎(93)	郷土史	米子市
平成16年度	西垣 風江(85)	日本画	岩美町
	野崎 信次郎(80)	版 画	倉吉市
	伊田 弘實(93)	短 歌	米子市
平成17年度	砂川 哲夫(85)	演 劇	鳥取市
	篠村 昭二(77)	教育史	鳥取市
	杉本 良巳(77)	郷土史	南部町
平成18年度	西村 清市(83)	伝統芸能	鳥取市
	福井 貞子(74)	染 織	倉吉市
	松尾 陽吉(85)	郷土史	米子市
平成19年度	木原 義明(84)	水彩画	八頭町
	柴山 抱海(65)	書	鳥取市
	鈴木 恵一(74)	音 楽	鳥取市
平成20年度	山本 恵三(71)	絵 画	鳥取市
	西川 妙子(72)	音 楽	鳥取市
	嶋田 悦子(79)	染 織	境港市
平成21年度	森 納(81)	民俗学	鳥取市
	越野 弘夫(74)	水彩画	北栄町
	村尾 義晴(89)	音 楽	米子市
平成22年度	前田 昭博(56)	陶 芸	鳥取市
	小谷 恵造(76)	郷土史	琴浦町
	八橋 誠滋(87)	洋 画	伯耆町
平成23年度	須崎 俊雄(78)	文芸、文化振興	鳥取市
	ニシオ トミジ(76)	洋画	鳥取市
	影山 猛(85)	郷土史	江府町
平成24年度	井上 嘉明(77)	文芸	鳥取市
	角 護(69)	洋画	境港市

第18回北東アジア地域国際交流・協力地方政府サミットの結果について

平成25年11月27日
交流推進課

10月30日(水)及び31日(木)にロシア沿海地方で開催された第18回北東アジア地域国際交流・協力地方政府サミット及び各地域との会談等の概要は以下のとおりです。

1. サミット本会議の概要

- (1) 日 時 10月30日(水) 10:00~12:00
- (2) 場 所 極東連邦大学キャンパス(沿海地方ウラジオストク市ルースキー島)
- (3) 参加者 鳥取県 平井伸治知事
沿海地方 ミクルシェフスキー・ウラジーミル知事
吉林省 巴音朝魯(バーインジャオルー)省長
中央県 ドルジ・バヤルバト知事
江原道 金尚杓(キム・サンピョ)副知事
- (4) 開催テーマ 「北東アジア地域間の経済・文化の相互協力ネットワークにおける観光発展の新しい見通し」
- (5) 結 果 (共同宣言文は別紙のとおり)
 - 各地域の代表は、これまでの各地方政府間の相互協力及び友好関係を更に積極的に発展させることを目指し、観光分野の発展が北東アジアにおける文化・経済交流を強化させるとの認識のもと、エコツーリズム・スポーツツーリズム等の地域の特徴を活かした観光発展、北東アジア地域の交通網の維持・発展、環境保護に対する共同貢献等を各地域が協調して推進していくことで一致した。
 - また、交通網の維持・拡充が観光分野をはじめとした経済発展の基盤であるとの認識のもと、境港-東海-ウラジオストクを結ぶ環日本海定期貨客船や定期航空路線など本サミット参加地域を繋げている既存の全ての交通路線の維持・発展のために協力し、最大限の努力を行うことで一致した。
併せて、来年鳥取県で開催予定のGTI(広域図們江開発計画)地方協力委員会の第2回会合に向けた各地域の連携強化について一致した。
 - 2014年に本県で開催する「全国障がい者芸術・文化祭とっとり大会」、2021年に関西広域連合での開催を招致している国際総合競技大会ワールドマスターズゲームズを始め、各地域で開催される国際事業の開催を歓迎し、積極的な支援を行い、成功裏に開催されるように可能な限り努力することを確認した。
 - 本県からは、豊かな自然やエネルギー、マンガ等の素材を活かした観光分野の取組を紹介し、各地域からの来県を呼びかけた。また、世界市場からの観光客誘致に向けた取組の必要性、青少年交流の促進等について提案し、各地域からの賛同を得た。
 - 次回サミットの開催地域がモンゴル中央県に決定した。
 - 北朝鮮の拉致問題解決について関係地域に働きかけた。

2. 各会談等の概要(全ての地域の相手方と初めての会談)

(1) 巴音朝魯(バーインジャオルー)吉林省長との会談

- 平井知事から「遠山正瑛先生の植林活動の発祥地」と県を紹介し、「来年の両県省の友好交流覚書締結20周年を祝うとともに、経済・観光・青少年交流など幅広い分野での交流を推進し、更に絆を深めていきたい」と提案した。また、来年鳥取県でGTI(広域図們江開発計画)地方協力委員会の第2回会合を開催することへの協力を呼びかけた。
- 巴音朝魯省長から「私は内モンゴルで遠山先生とともに植林活動に従事した」との話があり、「吉林省は鳥取県との交流を大切にしている。平井知事からの交流発展やGTIについての提案に賛同する」と同意した。

(2) ミクルシェフスキー・ウラジーミル沿海地方知事との会談及び覚書署名式

- 平井知事から「両地域間を直接結ぶ唯一の航路である環日本海定期貨客船を活用した両地域の更なる経済発展を図るため、タスクフォースの設置などの取組の推進及び医療分野をはじめ青少年・文化など幅広い交流を推進していきたい」と呼びかけた。
- ミクルシェフスキー知事は「貿易促進のため現在抱えている課題をはじめ沿海地方として取り組みたい」と述べるとともに、「今後の交流拡大について同意し、環日本海定期貨客船航路の維持・発展、利用促進に向けて両地域で具体的な作業を行いたい」と述べた。
- 会談に併せて、鳥取大学医学部附属病院と極東連邦大学医療センターとの医療・学術分野の交流に関する覚書の署名式が開催され、両知事が立会いを行った。

(3) 金尚杓(キム・サンピョ) 江原道副知事との会談

- 平井知事から、「今月 19 日に米子市で崔文洵(チェ・ムンスン) 江原道知事と協議し、両地域の交流基盤である環日本海定期貨客船航路の運航に対して両地域でサポートすることで合意した。先刻、沿海地方知事もサポートに同意したところであり、3 地域共同での体制づくりをしたい」と述べた。
- 金副知事は、「環日本海定期貨客船に関して沿海地方とも連携しながら実務的な取組を進めたい」と述べた。
- また、来年の両地域の友好交流 20 周年に向けた準備を進めるとともに、観光、経済交流面の連携を深めることで合意した。

(4) ドルジ・バヤルバト中央県知事との会談

- 平井知事から「これまで両地域が取り組んできた農業分野や鳥取県モンゴル中央県親善協会の交流などの継続・発展や新しく交流の担い手となる若い人材を育てるための留学制度の創設」を呼びかけた。
- バヤルバト知事は、これまでの鳥取県との交流に対する謝意が述べられるとともに、新たな留学制度の創設について、日本語教育の充実を中央県で進めることを含め、中央県として取り組んでいくと述べた。
- 平井知事から、モンゴルのエルベグドルジ大統領が訪朝していることに言及し、北朝鮮の拉致問題解決について協力を働きかけた。

3. 知事日程

月 日	日 程
10月29日(火)	仁川空港→ウラジオストク空港
10月30日(水)	8:15-8:50 中国吉林省との二地域間会談【ウラジオストク市内ホテル】 10:00-12:00 第18回北東アジア地域国際交流・協力地方政府サミット本会議【極東連邦大学キャンパス】 12:05-12:30 共同宣言文署名、共同記者会見【同上】 14:30-15:15 美術作品展示会開幕式及び視察【同上】 15:30-16:30 極東連邦大学医療センター視察 19:00-21:00 沿海地方知事主催夕食会【迎賓館(ウラジオストク市郊外)】
10月31日(木)	10:00-10:45 ロシア沿海地方との二地域間会談【沿海地方行政府】 10:45-10:55 鳥取大学医学部附属病院と極東連邦大学医療センターとの医療・学術分野交流覚書署名式【同上】 11:00-11:40 韓国江原道との二地域間会談【同上】 11:50-12:20 モンゴル中央県との二地域間会談【同上】 12:30-13:30 ロシア極東地域の鳥取県サポーター(日本語履修大学生及び若手社会人)との昼食会 13:45-14:15 ウラジオストク市内スーパーマーケットの市場調査 ウラジオストク空港→仁川空港 (11月1日(金)に帰国(米子空港着))

(時間は現地時間/沿海地方の日本との時差は+2時間)

第18回北東アジア地域国際交流・協力地方政府サミット

共同宣言文

日本国鳥取県知事 平井伸治、ロシア連邦沿海地方知事 ミクルシェフスキー・ウラジーミル、中華人民共和国吉林省長 巴音朝魯、モンゴル国中央県知事 ドルジ・バヤルバト、大韓民国江原道副知事 金尚杓は、2013年10月30日にロシア連邦沿海地方において開催された「第18回北東アジア地域国際交流・協力地方政府サミット」において、友好的で実務的な雰囲気の中で、本サミット参加者及び各地域の相互協力及び友好関係を積極的に発展させることを目指し、地域の共同繁栄のために幅広い意見交換を行い、次の事項について合意した。

1. 各地域は、北東アジア地域間のあらゆる交流の発展・拡大のために本サミットの肯定的な意義を評価し、相互協力しながら、安定した社会・経済及び環境に配慮した地域発展のために連携を継続する。各地域は、経済協力の促進を目指し、貿易・経済関係組織の連携を強化させ、地域発展への対策を講じながら、投資及び貿易・経済協力の強化とこの協力関係を新しい水準に引き上げるように支援する。
2. 各地域は、観光分野の発展が北東アジアにおける文化、実務取引、経済交流を強化させることになるとの認識のもと、本サミット参加地域の観光の魅力を高めることを目指し、努力する。特に、エコツーリズム、サイクリングなどのスポーツツーリズム、医療ツーリズム等の地域の特徴を活かした体験型の観光地づくりを目指して、観光資源に関する宣伝・情報発信活動を行い、提供する観光サービスの質を向上させ、滞在中の外国人観光客の安全性を高め、外国人観光客の増加のために必要な対策を実施する。
3. 各地域は、交通網の維持・拡充が観光分野をはじめとした経済発展の基盤であるとの認識のもと、境港―東海―ウラジオストクを結ぶ環日本海定期貨客船や定期航空路線など本サミット参加地域を繋げている既存の全ての交通航路の維持・発展のために協力し、最大限の努力を行う。また、交通網の活性化を阻害する問題点を解決するために共同で努力する。更に新しい航路を開発することにより、交通網の拡大に努力するとともに、交通航路の機能のために必要な交通インフラの発展を支援する。
また、GTI 地方政府協力委員会の枠組みを活用しながら、2014年に鳥取県で開催する第2回会合に向けた準備、協力を推進し、北東アジア地域内の物流及び観光客往来の円滑化に向けた取組の連携を強化する。
4. 各地域は、北東アジア地域内の環境保護に対する共同貢献を目指し、生物多様性の保全、廃棄物の処理、大気環境の保全、及び相互に関心を有するその他の環境保護の分野に対する民間投資の誘致に係る情報交換を継続する。

5. 各地域は、それぞれの地域で開催される国際事業の開催を歓迎し、積極的な支援を行う。
- ・ 2013年から2017年までウラジオストク市で開催する太平洋国際観光展（PITE）、国際環境フォーラム「国境なき自然」
 - ・ 2014年に鳥取県で開催する全国障がい者芸術・文化祭とっとり大会、2021年の関西広域連合での開催を招致している国際総合競技大会 WMG（ワールドマスターズゲームズ）
 - ・ 2014年に吉林省で開催する第10回中国－北東アジア博覧会、北東アジア諸国観光団体フォーラム
 - ・ 2014年に江原道平昌郡で開催する第12回国際連合生物多様性条約に関する締約国会議（CBD COP）、2014年に江原道江陵市で開催する GTI 国際貿易・投資博覧会
- 各地域は、予定されている事業が成功裏に開催されるように可能な限り努力する。

6. 各地域は、科学、文化、スポーツ、教育、医療分野における国際交流・協力を支援し、二地域間及び多地域間の交流プログラムを拡大する。

7. 次回サミットは、モンゴル国中央県で開催する。

この共同宣言文は、日本語、ロシア語、中国語、モンゴル語、韓国語でそれぞれ作成し、各地方政府が各1部を保管する。

2013年10月30日



日本国鳥取県知事

ロシア連邦沿海地方知事

中華人民共和国吉林省長

モンゴル国中央県知事

大韓民国江原道副知事

平井 伸治

首都圏における航空便利用促進の取り組みについて

平成25年11月27日
東京本部
交通政策課
観光政策課

首都圏における航空便利用促進の取り組みについて、今後、次の事業を実施する予定です。

1. 「食のみやこ鳥取県×羽田空港 どんぶりフェア」

羽田空港のレストランで県産食材を使った特別メニューを提供するとともに、その店舗内外で特別な装飾や本県物産の販売を行うことにより、鳥取・米子への航空路線、本県の食や観光等に関する情報を集中的に発信する。

- (1) 開催時期 11月9日(土)～12月15日(日)
- (2) その他 鳥取県フェアPRチラシの配布、ポスターの掲出(京急車内、京急・羽田空港駅、モノレール・羽田第1ビル駅等)

2. 鳥取県観光PR隊キャラバン

本県との間に新たにスカイマークの路線が開設される地域で、山陰の冬の味覚「松葉がに」や県下各地の「温泉」等の観光魅力を紹介するPRキャラバンを実施し、当該航空路線を利用した観光誘致を促進する。

(1) キャラバン隊

鳥取県旅館組合おかみの会、鳥取県旅館ホテル生活衛生同業組合、とっとり観光親善大使、鳥取県職員等で編成

(2) 日程(案)

- 12月2日 観光経済新聞、旅行新聞、東京メトロポリタンテレビ(MXTV)
- 3日 千葉日報、旅行会社訪問、千葉テレビ等
- 4日 茨城県庁、茨城県記者クラブ、NHK茨城等

3. 「鳥取Fes」

鳥取県にゆかりのあるお店(飲食店等)と連携し、鳥取の食を中心としたPRイベント「鳥取Fes」を首都圏で展開。首都圏と鳥取を結ぶ航空路線についてもPRする。

- (1) 開催時期 12月5日(木)～翌年1月31日(金)
- (2) その他 「メトロガイド1月号」(100万部)への記事掲載、ゆかりの店での鳥取県PR等

4. その他

- | | |
|------------|---------------------------|
| 12月下旬(調整中) | 茨城空港での鳥取物産展 |
| 翌年1月(調整中) | 木更津アウトレットモールでの鳥取県・千葉県合同PR |
| 翌年2月(調整中) | スカイツリーでの鳥取県観光PR |

山陰海岸ジオパークの日本ジオパーク再認定審査について

平成25年11月27日
観光政策課
緑豊かな自然課

平成20年12月に日本ジオパークの認定を受けた山陰海岸ジオパークの再認定審査が11月19日(火)～20日(水)に行われた。

審査の概要は下記のとおりである。

記

- 1 期 日 平成25年11月19日(火)～20日(水)
- 2 場 所 (ヒアリング) 豊岡市役所・山陰海岸ジオパーク館(19日)、鳥取市役所(20日)
(現地審査) 玄武洞公園、鳥取市新規エリア(あおや和紙工房、鹿野町) など
- 3 審査員
菊地 俊夫 氏 日本ジオパーク委員会委員(首都大学東京教授、日本地理学会員)
竹之内 耕 氏 糸魚川ジオパーク協議会学芸員(フォッサマグナミュージアム館長補佐)
加賀谷 にれ 氏 洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会事務局(壮瞥町総務課ジオパーク推進室)
- 4 審査の主なポイント
 - ・認定後に行った事業・活動が、日本ジオパークとして質の高いものであるか、量的に十分なものであるか(保全、研究、教育、観光など、地域活性化の観点)
 - ・運営組織・体制の状況
 - ・平成22年の世界ジオパークネットワーク審査の指摘事項に対する対応(組織体制の強化、ジオパークの価値を高める努力、中核施設の整備、案内看板の改善など)
 - ・鳥取市新規エリア(鳥取市西部地域)の審査
- 5 審査員の総括意見(11/20)
 - ・協議会を中心に各地域(3市3町)の連携がよくできている。(審査前の不安を払拭する水準であった)
 - ・民間レベルでもボトムアップで様々な活動(ガイド、商品づくりなど)が進んでおり、地域住民の参画、協力体制もできている。
 - ・他のジオパーク地域のお手本となると言って良い。
 - ・もっと上を目指すための課題として、「ツーリズム面でのさらなるプロモーション活動」「各ジオサイト間のネットワーク作り」などがある、積極的に取り組んで欲しい。
 - ・拡大エリアについては、山陰海岸ジオパークのストーリーに沿ったものと感じた。
 - ・また、世界ジオパークになった以降も既存エリアと同様の水準で活動できる準備もできている。
 - ・今後は、日本一のジオパークを目指して欲しい。その資格は十分にある。
- 6 今後の予定等
 - 平成20年12月：日本ジオパーク認定
 - 平成22年10月：世界ジオパークネットワーク加盟認定
 - 平成25年11月：日本ジオパークネットワーク再認定審査
 - 平成25年12月16日：再認定審査結果が発表予定
 - 平成26年6～8月頃：世界ジオパークネットワーク再認定審査
 - 平成26年9月：世界ジオパークネットワーク再認定審査結果発表

タイにおける知事トップセールスの結果概要について

平成25年11月27日
通商物流室・国際観光推進課
交流推進課・交通政策課

平井知事、野田県議会議長及び県内企業等がタイのバンコク都を訪問し、鳥取県東南アジアビューローの開所、タイ工業省とのMOU（覚書）の締結、バンコク鳥取フェアの開催及び観光・航空関係者等への知事トップセールス等を行いました。

1. 知事日程

日付	日 程
11月11日(月)	バンコク着 バンコク鳥取フェアでの販売促進 バンコク鳥取フェア出展企業及びバイヤーとの意見交換会 【バンコク都内泊】
11月12日(火)	鳥取県東南アジアビューロー開所式 鳥取県経済団との意見交換会 タイ工業大臣表敬及びMOU締結 鳥取県のタベ in バンコク 県内現地進出企業との意見交換会 【バンコク都内泊】
11月13日(水)	アジア・アトランティック航空訪問 JTBタイランド訪問 日本政府観光局バンコク事務所及び旅行会社等との意見交換会 デジタルハリウッド大学バンコク校及び米子校の提携式 在タイ日本国大使館訪問 タイ旅行業協会長との意見交換会 【バンコク都内泊】
11月14日(木)	バンコク発

2. 訪問団

平井伸治知事、野田修議長、県内企業（機械、電機、食品加工、農事組合法人等）、鳥取県産業振興機構等

3. 各訪問先での概要

(1) バンコク鳥取フェアでの販売促進

- 鳥取県産食品の消費拡大につなげるため、農事組合法人広岡農場、株式会社越河など県内7事業者は11月8日から14日までの7日間、バンコク都のエンポリアム・デパートメントストアで鳥取フェアを開催した。11日には平井知事や野田議長が、鳥取県産の梨（王秋、新興梨）、リンゴ、白ネギ、カニ加工品、日本酒、スイーツなどがずらりと並んだ会場にかけつけ販促活動を行った。
- フェア会場では鳥取県出身で現在バンコク在住の漫画家、正善（しょうぜん）みぎわ氏による「似顔絵コーナー」を設け、好評を得るなど本県のPRに一役買った。平井知事はバンコクの百貨店食品モール統括マネージャーと面談し鳥取県産品の継続販売、取扱品目の拡大を要請した。
- 平井知事がトラベル・チャンネル（地元ケーブルテレビ）の番組取材に対して、物産や観光の魅力をアピールした。

(2) 鳥取県東南アジアビューロー開所式

- バンコク都シーロム地区チャーン・イサラタワー7Fに委託方式による鳥取県東南アジアビューローを開所するに当たり、鳥取県知事、在タイ日本国大使館、県内企業等約30名が参加するなか開所式を行った。知事はアセアン市場における、鳥取県の企業の販路・受注拡大に向けた支援を積極的に進めたいとビューロー設置の目的を強調した。
- 引き続き、事務所看板の除幕式、テープカットなどが行われ、ビューローの執務室、会議室などを参加者や現地報道陣に公開した。
- ビューローの会議室では、知事、県議会議長、鳥取県内企業及びビューロー受託企業が今後の東南アジアビューローの役割や活用方策等について意見交換を行った。

(3) タイ工業大臣表敬及びMOU締結

- 鳥取県とタイ工業省とは、双方の中小企業の技術のマッチングや人材育成をはじめとした経済・産業分野における緊密な関係の確立など、今後の相互利益のための連携強化を目的として、タイ工業省にて、「タイ王国工業省と日本国鳥取県庁との間の協力に関する覚書（MOU）」の調印式を行った。

- ・調印は、プラスト・ブンチャイスク工業大臣との意見交換の後、大臣立ち会いのもと平井知事とアンチャカー・シーブンルアン産業振興局長との間で結ばれ、県からは経済界を代表して県内企業3社(気高電機(株)、(株)鳥取メカシステム、寿製菓(株))の代表とタイ進出済みの県関連企業1社(ダイヤモンド電機(株))の現地代表、鳥取県産業振興機構が立ち会った。

(4) レセプション「鳥取県のタペ in バンコク」

- ・タイ工業省産業振興局長をはじめとするタイの政府関係者、スコータイ県のバンシリ自治体長、在タイ日本大使館公使、企業関係者、現地旅行会社、日本食材バイヤーら約170人を招き、鳥取県東南アジアビューロー開所記念レセプションをバンコク都内のホテルで開催した。
- ・タイ工業省アンチャカー・シーブンルアン産業振興局長は「今後タイと鳥取県の企業の連携に力を入れたい。鳥取県は鳥取砂丘、大山など自然が豊かで漫画も有名。」とあいさつした。
- ・レセプションでは鳥取県産のスパークリングワイン、日本酒を提供したほか、鳥取県の観光紹介、まんが、鳥取県食材の紹介などを行った。特に鳥取県産の白いか、ねばりっこを使ったお好み焼き、べにズワイガニ、ねばりっこを使った「カニのねばりっこ揚げねぎあんかけ」が好評を博すなど県産食材のPRにも重点を置いた。
- ・タイ進出済みの県内企業のタイ工業省との人脈形成、鳥取県東南アジアビューロー開設を参加者に対し広くPRする機会となった。

(5) アジア・アトランティック航空訪問

- ・平井知事から鳥取の自然、食、まんがなどの概要説明と併せ、12月のスカイマークの新規就航など直近の県内航空情報を提供し、タイから鳥取への観光誘客やチャーター便の可能性について意見交換を行った。
- ・先方からは、スカイマークの成田米子便を活用したタイからの旅行商品造成を検討したいとの意向が示されるとともに、チャーター便の可能性を含め、今後連携して検討したいとの積極的な提案がなされた。

(6) JTBタイランド訪問

- ・平井知事から鳥取の自然、食、まんがなどの概要説明と併せ、12月のスカイマーク新規就航など直近の県内航空情報を提供し、タイから鳥取への観光誘客について意見交換を行った。
- ・先方からは、タイからの旅行商品造成を積極的に検討したいとの意向が示された。

(7) 日本政府観光局バンコク事務所及び旅行会社等との意見交換

- ・タイからの訪日観光客の動向等について、情報交換を行うとともに、鳥取県への送客への協力について依頼した。

(8) デジタルハリウッドバンコク校・米子校の調印式

- ・デジタルハリウッド STUDIO 米子を運営する(有)クレイドの平尾代表取締役とデジタルハリウッド タイランド(株)の小林代表取締役兼CEOが、受講生の国際交流や能力向上、タイから鳥取県への観光誘客等に寄与する活動を行うことを目的として、平井知事立ち会いのもと、調印式を行った。

(9) 佐藤重和(さとうしげかず)タイ王国駐劭特命全権大使表敬訪問

- ・平井知事から、佐藤大使に対し、このたびの鳥取県東南アジアビューローの開所、タイ工業省と鳥取県との覚書の締結、物産フェアの開催、観光客誘致のに向けた関係先訪問及び観光PRなどの取り組みを紹介し、大使に今後の支援について要請した。
- ・佐藤大使から、タイ人の訪日旅行、名探偵コナンをはじめとするアニメなどポップカルチャーや果物等の嗜好について説明があり、まんが王国などタイ人が親しみやすいものを活かした観光案内の充実が重要であるとの説明があり、平井知事より、鳥取県の交流支援について要請した。

(10) スティボン・ブアンピポップ・タイ旅行業協会長との意見交換

- ・平井知事から鳥取の自然、食、まんがなど観光の他、関西、羽田及び仁川へのアクセス、12月のスカイマークの新規就航など鳥取県について説明を行うとともに、タイから鳥取県への観光誘客について協力を依頼した。
- ・先方から、鳥取への送客に向けて協力していくとの意向が示され、鳥取県の観光地等のタイの旅行者による視察を、早ければ1月上旬にも行う方向で一致した。

まんが王国とっとり第2回元老院議会の開催結果について

平成25年11月27日
まんが王国官房

建国2年目を迎えた「まんが王国とっとり」の国づくりを進めていくに当たって、知識と経験を持つ有識者との意見交換を行うため、下記のとおり第2回元老院議会を開催しました。

記

- 1 日 時 平成25年11月7日(木)
- 2 場 所 わらべ館いべんとほーる
- 3 参集範囲 知事、元老院顧問・議員、事務局(別記のとおり)
- 4 経 緯

- 5月21日(火)、県庁にて第1回元老院議会を開催し、国づくりの基本的な方向性を確認し、「まんが王国とっとり国づくり構想(仮称)」を年度内に策定することとした。
- 8月26日(月)に倉吉市内、同28日(水)に東京都内にて、まんが王国とっとり「車座まんが談義」を開催し、第1回議会の開催結果を踏まえて議論した。

5 概 要

○今後の取組を展望するに当たって、今夏の「まんが博・乙」を顧みるとともに、事務局から提示した「まんが王国とっとり国づくりチャレンジプラン(仮称)の骨子(案)」に基づいて意見交換を行った。

- ・将来の「まんが王国」のイメージを描き、その夢に到達するには何をすべきか整理して取り組むべき。
- ・必ずしもまんがを目的にしているわけではない一般観光客には、温泉などの観光資源に新しい魅力としてまんがを加えて県全体をアピールすべき。
- ・県は、既存のまんが関連施設の取組を支援するとともに、地道であっても、まんがに親しめるようなイベントを実施すべき。
- ・マンガ表現は、子育て王国や食のみやこにも活用していくべき。まんが王国官房として、商談会の開催で県内クリエイターとの橋渡しを行うなど、部局横断的な連携に留意してほしい。
- ・SNS(フェイスブック、ツイッター等のソーシャル・ネットワーキング・サービス)を活用した情報発信にもっと力を入れるべき。

○意見交換の結果を踏まえるとともに、将来の夢、イメージについて、元老院のメンバーそれぞれが描いたものを事務局で集約しながら、チャレンジプラン(仮称)の策定を進めることを確認した。

6 今後のスケジュール

- 翌2月頃 第3回元老院議会を開催
- 年度内 「まんが王国とっとり国づくりチャレンジプラン(仮称)」を策定

(参考)

「まんが王国とっとり国づくりチャレンジプラン（仮称）」の骨子（案）〔抄〕

(1) 策定の趣旨・チャレンジプランの役割

- ・今後も引き続き「まんが王国とっとり」が国民とともに繁栄することをめざして、国民と一丸となって取り組む国づくりの基本的な指針を策定し、国の将来像を国民に明らかにする。
- ・全国に先駆けて取り組むことをもって、王国たるゆえんとする。構想は、建国の決意の表れとしての性格を併せて持っている。

(2) 設定目標 「“まんが”で活力ある国づくり」

(3) 国づくりの方向性（3つのアプローチ）

ア 文化振興・観光誘客「魅力ある文化に惹かれ、笑顔が集まる国づくり」

- ・他県に先駆けて、マンガ文化を集積・発信するとともに、将来に伝承
- ・観光や移住定住を促進する資源またはPR手法として“まんが”を一層活用

<具体的な取組（例）>

- ・マンガ原稿アーカイブ（仮称：ストックヤード&展示室）の設立（長期）
- ・まんが王国とっとり国民の日の制定（＃）
- ・国際マンガコンテストの継続実施によるマンガ文化の振興（短期）
- ・まんが王国とっとり応援団の充実（＃）
- ・“聖地”を活かした観光誘客（＃）
- ・まんが王国とっとり国内における周遊促進（＃）
- ・海外インバウンドの促進（環日本海地域・東南アジア）（＃）
- ・ゆかりのマンガ家と連携した情報発信（＃）

イ 人間形成・産業育成「心豊かに暮らせ、夢に向かって翔ける国づくり」

- ・観察力、理解力、表現力を持ち、心ゆたかにコミュニケーションできる国民を育成
- ・マンガ家を育成するとともに、マンガ産業を支援

<具体的な取組（例）>

- ・教育現場における「マンガ表現」の活用（長期）
- ・まんが王国とっとり版トキワ荘（仮称）（＃）
- ・アルファビル、秋葉原倶楽部を拠点としたコンテンツ開発支援（短期）
- ・マンガ商談会の実施（＃）

ウ 交流促進・相互理解「世界と手をつなぎ、誰とでも分か(りあえ)る国づくり」

- ・マンガを軸に国内・国際交流を一層推進
- ・“まんが”をコミュニケーションの手段として活用することによって、楽しくて分かりやすい広報宣伝を実施

<具体的な取組（例）>

- ・まんが王国としての積極外交（高知県・明治大学等）（短期）
- ・中国などアジア諸国の若者との交流（＃）
- ・“まんが”の手法による広報宣伝の充実（＃）
- ・ゆかりのマンガ家と連携した情報発信〔再掲〕（＃）

(4) チャレンジのスタンス

まんがを楽しみ、まんがに自信と誇りを持つ国民とともに、他国の人々とも一丸となって取り組む。（市町村・関係民間団体と連携しつつ進め、県はこれらを支援する。）

〔用語の定義〕

まんが… マンガ（単行本・雑誌）、アニメーション（動画）、ゆるキャラ、コスプレ行為、サブカルチャーとしての映画・音楽など、幅広い創作表現活動全般

(別記)

まんが王国とっとり元老院議会メンバー一覧

区分	氏名等	備考(第2回議会出席者)
顧問	ちば てつや	
	里中 満智子	
	赤井 孝美	出席
議員	河原 正彦(鳥取環境大学副理事長)	出席
	住川 英明(鳥取大学地域学部教授)	出席
	白井 利光(明治大学調査役)	出席
	小坂 俊夫(京都国際マンガミュージアム)	出席
	原口 尚子((株)水木プロダクション代表取締役)	
	寺西 竜也(コンテンツ産業関係者)	出席
	木谷 清人((公財)鳥取市文化財団理事長)	出席
	岸田 寛昭(NPO未来理事長)	代理出席(事務局長 麻田雄一)
	久保田 孝((株)DARAZ代表取締役)	出席
	大田 斉之(鳥取市経済観光部長)	出席
	大江 淳史(米子市経済部長)	
	片山 暢博(倉吉市企画振興部長)	出席
	伊達 憲太郎(境港市産業部長)	出席
	松本 昭夫(北栄町長)	代理出席(副町長 岡崎 功)
	細羽 正(鳥取県文化観光局長)	出席
事務局	前田 修(鳥取県文化観光局まんが王国官房長)	出席

国際マンガサミット香港大会への参加結果について

平成25年11月27日

まんが王国官房

「まんが王国とっとり」のPR及び国内外の漫画家等とのネットワーク構築のため、国際マンガサミット香港大会に参加するとともに、作品展会場においてPR展示を行いました。

【香港大会2013概要】

1. サミット

期 間：2013年11月15日（金）～11月18日（月）

会 場：香港・湾仔（ワンチャイ）地区香港アートセンター

参加者：漫画家等約250名（日本・韓国・中国・台湾・香港・マカオ・マレーシア）

本県参加者：前田 修（文化観光局 まんが王国官房長）ほか2名

内 容：基調講演等「デジタルプラットフォームの漫画発展」ほか

香港代表の黄玉郎氏より歓迎挨拶の後、香港政府経済発展局長の蘇錦梁氏より政府としてもマンガに対する支援に力を入れていきたいという発言があった。

その後、分科会が開催され、各国のマンガ関係者が議論を行った。

2. 作品展

期 間：2013年11月15日（金）～12月17日（火）

会 場：香港・湾仔（ワンチャイ）動漫基地コミックホームページ

展 示：漫画家の複製原画を展示

本県出展内容：タペストリー及びパンフレット配置

3. 参加の成果

作品展会場でPRを行ったところ、参加者から興味を持たれ、「まんが王国とっとり」の認知度向上に繋がった。

各国の代表者から「まんが王国とっとり」の取り組みに対し、協力するという好意的な発言があった。



香港代表開会挨拶



本県の展示



本県の展示



閉会式での調印

「エコツーリズム国際大会2013 in 鳥取」の開催結果等

平成25年11月27日
西部総合事務所 地域振興局
文化観光局 交流推進課

10月19日(土)から21日(月)まで開催された標記大会(併催・応援イベント含む)について、以下のとおり開催結果を報告します。

1 参加者

- エコツーリズム国際大会参加者 延べ3,916人 (⇒目標2,500人の約1.6倍)
- 併催・応援イベント参加者 13,312人
- 全体参加者(併催・応援イベント含む)計 延べ17,228人

(単位:人)

区分	開会式・閉会式等	交流会	オプション・オプションツアー	世界のエコツーリズムコーナー	計	<参考>併催・応援イベント
10/19(土)	1,650	269	-	522	2,441	-
10/20(日)	-	140	216	832	1,188	13,312
10/21(月)	165	-	12	110	287	-
計	1,815	409	228	1,464	3,916	13,312

【内訳詳細】

区 分		大会参加者数			
エコ ツー リズム 国際 大会	10月 19日 (土)	開会式・基調講演・トークセッション (米子CC・多目的ホール) ※大山ダウンヒルサイクリング実施	1,650人	※海外・県外参加総数 (10/19開会式・基調講演・ トークセッション) <u>516人(31.3%)</u> ○県外:451人 ○外国人:65人 ・韓国15人 ・中国6人 ・ロシア5人 ・モンゴル4人 ・アメリカ2人 ・トルコ1人 ・その他32人	
		米子交流会(米子CC・国際会議室)	269人		
		世界のエコツーリズムコーナー (米子CC・情報プラザ)	522人		
	10月 20日 (日)	エクスカースィ ョン(県内各地)	1日コース(9コース) 半日コース(3コース)		196人 20人
		大山交流会(大山ホワイトパレス)	140人		
		世界のエコツーリズムコーナー (米子CC・情報プラザ)	832人		
	10月 21日 (月)	報告会・閉会式(米子CC・国際会議室)	165人		
		世界のエコツーリズムコーナー (米子CC・情報プラザ)	110人		
		オプションツアー (鳥取砂丘コース、出雲大社コース)	12人		
	小計(①)		3,916人		
併 催 イ ベ ン ト	10月 20日 (日)	皆生・大山SEA TO SUMMIT 2013	350人	日野川河口~大山	
		全国SEA TO SUMMIT連絡協議会	42人	モンベル大山店	
		エコツーリズム国際大会2013in鳥取記念 「平成25年度大山秋の一斉清掃」	750人	大山寺	
	小計(②)		1,142人		
応 援 イ ベ ン ト	10月 20日 (日)	米フェスタ2013~米生郷祭秋の大収穫祭~	5,000人	米子CC(多目的ホール)	
		ノーレジ袋推進シンポジウム	370人	米子CC(国際会議室)	
		心と体の健康づくり提唱のつどい	300人	米子CC(小ホール)	
		食のみやご当地グルメフェスタIN米子	6,500人	米子CC(正面玄関前)	
	小計(③)		12,170人		
合計(①+②+③)		17,228人			

2 エコツーリズム国際大会の開催（国際大会1日目・10/19）

- ふるさとの財産である美観や伝統文化を観光に生かす方法などについて、専門家が活発に意見を出し合った。生活文化の物語化、五感への訴え、自然の恵みへの感謝など、エコツーリズム発展の方向性を参加者が共有した。
- 「米子交流会」では、参加者が地元の特産食材を使った料理を味わい、鳥取の自然の豊かさを味覚でも堪能した。日本（尺八・琴）と海外（馬頭琴）の伝統楽器の演奏も好評だった。
- 世界30地域のエコツーリズムを紹介する「世界のエコツーリズムコーナー」では、美しい風景や自然・文化の楽しみ方などを、地域ごとにポスターや映像等で紹介し、期間中多くの来場者があった。
- 江原道知事をはじめ友好交流地域の方々には、平井知事と一緒に大山ダウンヒルサイクリングで、大山周辺の自然の魅力を体感していただいた。併せて、国内外の専門誌等メディアにより、大きく情報発信できた。
- 米子南高放送部がエコツーリズムを題材にした映像「伝える、たたら。」を制作し、「平成25年度鳥取県高等学校総合文化祭」の「放送部門（ビデオメッセージ部門）」で”奨励賞”を受賞した（平成26年秋に福井県で開催される「近畿高校総合文化祭」への出場が決定。）。

3 エクスカーション実施状況（国際大会2日目・10/20）

- 大会二日目はあいにくの雨天のため、Iコース（国宝・三徳山三佛寺投入堂への修験の道登山と遙かなまち倉吉を訪ねるコース）の三徳山登山が中止（雨天により入山禁止）になった。
- 他の8コースについては（サイクリングや登山も含む。）予定通り催行した。
- 全コースとも事故や怪我人等もなく無事終了した。
- ツアー終了後、参加者交流や各地域の情報交換などを目的にコースごとに分科会を開催した。
- 今後のツアー造成の参考資料とするためにエクスカーション参加者アンケートも実施した（現在集計中）。

4 エクスカーション報告会（国際大会3日目・10/21）

- 多くの県内外の学生がエクスカーションに参加し、活発な意見交換が行われた。
- 大会最終日のエクスカーション報告会では、学生による報告が9コース中6コースあった。（3コースは、日本エコツーリズム協会（JES）理事等の分科会ファシリテーター役の報告による）

[参考：大会への学生参加者数は190人]

【大学・短大】70人（愛媛大15人、中央大9人、和歌山大6人、鳥取環境大5人、鳥取大2人他）

【高校】120人（鳥取城北高46人、米子松蔭15人、米子南11人、米子北8人、智頭農林5人他）

5 評価

(1) 友好交流地域の感想

[大会への感想]

- 大変素晴らしい大会だった。エコツーリズムやスポーツツーリズムはとても有望なジャンル。鳥取県ではいち早く受入れているので我々も見習いたい。

（韓国江原道 崔文洵（チ・ムンソ）知事）

- モンゴル中央県では、自然を活かしたツーリズムが盛んであり、エコツーリズム国際大会への参加は大変有意義であった。鳥取県との連携を深めていきたい。

（モンゴル中央県 ショライ・トゥムルホドール副知事）

[大山ダウンヒルサイクリング]

- 吉林省の姉妹山である大山からのダウンヒルサイクリングは大変素晴らしかった。

（中国吉林省 陳香林（チン・シャンリン）副主任）

- 大山からのダウンヒルサイクリングは景色も素晴らしく貴重な体験だった。是非、アップヒルも体験したい。

（ロシア沿海地方 プザリア・アスタフ代表）

(2) エクスカーション等の評価

- 9コースとも共通してガイドのガイダンスとおもてなしが素晴らしく、鳥取の魅力を十分感じることができたという声が多かった。特にEコース（上代）やFコース（たたら文化）について、こういう中山間地区の取組や歴史があるのかという驚きの声が多かった。
- 各エクスカーションの昼食、米子交流会及び大山交流会の「食」について、旬の地元食材をふんだんに使ったメニューと豊富な種類に、国内外から多数の賞賛の声をいただいた。
- 「とっとりスタイルエコツーリズム」の今後の展開を考える上で必要なこと。
 - ・現地エコツアーガイドの充実化（人材育成）
 - ・地域住民の理解及び参画の仕掛けづくり
- 総括（山田桂一郎 JES 理事）の主なコメント
 - ・持続する地域作りのために、経済活動に発展していくことが重要。人と素材を活かす手段がエコツーリズムである。
 - ・鳥取県には素晴らしい素材（人やものや繋がり）がたくさんあり、そして長年住んで培ってきた生活文化がある。これこそがゲストにとって異日常の豊かさに繋がる。
 - ・今後は地域にある素材を繋いだ旅行商品作りや旅行商品とゲストをつなぐオペレーション等、それらを行える地域プロデューサー的な役割を担う人材（又はセクション）が求められる。

6 今後の展開

- ① エコツアープログラムのプロモーション及びモニターツアー実施
⇒「どど〜んと100万円プレゼント」による当選者50人（2万円分）によるエコツアー体験会実施
- ② エコツアープログラムの商品化及び販売
⇒営業ツール：とっとりスタイルエコツアーガイドブック（県内プログラム150本を集約）
販売及び連絡調整拠点：大山ツアーデスク（旅行業2種）ほか
- ③ とっとりスタイル エコツアーガイドブックの外国語版制作（韓国語、英語、台湾語等）
⇒インバウンドプロモーションに活用
- ④ 鳥取県観光ナビアプリ「TOTTRIP」（とっとりっぷ）との連携
⇒エコツアープログラムサイトの造成（追加）

7 報道状況（メディア掲載等）

- ① 会前に新聞に特集記事（全15段）掲載（日本海新聞）
- ② 会期間中（初日～最終日）に於いて各社（新聞、テレビ、ラジオ）報道
- ③ 大会終了後特別番組の放映
「エコツーリズム国際大会2013in鳥取」ダイジェスト版（BSSテレビ）
平成25年11月2日（土）15時30分～16時
- ④ 雑誌掲載
アウトドアマガジン「TRAMPIN」（トランピン）他 国内雑誌3社
月刊「山」・月刊「人と山」・月刊「マウンテン」韓国アウトドア系雑誌3社

8 「エコツーリズム国際大会2013in鳥取」開催予算規模

23,500千円

<主な財源>大会参加費（3,500千円）、企業協賛金（6,000千円）、
市町村負担金（5,400千円）、県補助金（5,400千円）、国補助金等（3,200千円）

